


1 作物

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 麦の収穫・乾燥・調製</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <p>麦の収穫・乾燥・調製 高水分収穫での注意事項 高水分麦の乾燥 麦の調製</p> <p>普通期水稻の田植え 1株3～4本で、坪当たり45～50株植えの疎植栽培</p> <p>大豆の播種 播種適期、湿害対策、種子更新・種子消毒、栽植密度、播種量</p> <p>ア 高水分収穫での注意事項 今年産の麦は、成熟期が大幅に遅れた上に入梅が早く、さらに台風第2号による大雨等で、裸麦でもまだ収穫できていない圃場が多くある。特にマンネンボシはやや穂発芽しやすい品種なので、速やかに収穫する必要がある。</p> <p>麦の収穫で品質低下を防ぐために最も大切なことは、高水分刈りを避けることであるが、やむをえず穀粒水分30%以上の高水分で収穫しなければならないことが予想される。このような場合のコンバイン収穫では、こぎ胴の周速度を通常より10～20%下げて、退色等の被害粒が発生しないようにする。</p> <p>また、収穫後に長時間(水分40%で6時間以上)放置すると穀粒の変質を来し品質が低下したり、赤かび病が感染拡大することがあるので、収穫後は直ちに乾燥する。</p> <p>イ 高水分麦の乾燥 麦の乾燥で特に留意すべきことは高水分時の乾燥である。穀粒水分が25%以下では45～50℃で乾燥できるが、25%以上の場合は品質低下(退色粒の発生等)を防ぐため穀温を下げ40℃以下で乾燥する。乾燥速度は乾減率0.8%で、裸麦では13%以下を目安に乾燥する。</p> <p>収穫が集中し共同乾燥施設での荷受け限界を超える場合は、農家の手持ちの乾燥機を利用して予備乾燥を行う。予備乾燥を行って穀粒水分を下げると、水分25%では3～4日、20%では7日程度は品質を下げることなく常温で保管でき、その後共同乾燥施設で本乾燥を行う。</p> <p>ウ 麦の調製</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 普通期水稻 の田植え</p>	<p>麦では、今後出荷に向けた調製が重要になる。今年の裸麦は収期大雨の影響で品質低下が懸念されるので、例年以上に入念な調製が必要である。</p> <p>調製に当たっては、実需者から望まれている高品質麦を供給するという点に留意し、雑草種子や異物（プラスチック、金属、ガラス等）の除去、荷口ごとの品質の均一化及び細粒の混入防止を図るため、グレーダー、色彩選別機、揺動型選別機等を用いて調製する。赤かび病罹病粒やカラスノエンドウの種子については、徹底的な選別で混入させないようにする。なお、グレーダーの篩目はヒノデハダカは2mm、イチバンボシ、マンネンボシは2.2mm、小麦のチクゴイ写真1 カラスノエンドウ混入麦ズミは2.3mm以上を基準とする。</p>  <p>6月は普通期水稻の移植時期にあたる。</p> <p>県と米麦振興協会では、近年の夏期の高温化による県産米の品質低下を軽減することと、植付苗箱数低減による低コスト化を目的に、1株3～4本で、坪当たり45～50株植えの疎植栽培を推進している。この栽植密度あれば、適切な穂数が確保でき、収量を減らすことなく登熟期の高温による品質低下を軽減できる。また、既に普及している田植機でもレバーやギヤにより簡単に調整可能で、10a当たりの必要苗箱数は従来の20～18枚から15～12枚程度に減らすことができる。</p> <p>また、水稻の高品質安定生産とともに、環境への負荷を軽減するため、特に次の点に注意して栽培管理する。</p> <p>濁水や肥料分を含む水を排出しないようにするため、代かきは極力浅水で行うとともに、自然減水の後に田植え作業を行う。</p> <p>過繁茂を防ぎ、登熟が高温期に重ならないようにするため、6月15日以降(適期6月20～25日)に移植する。</p> <p>登熟を高め、いもち病等に対する耐病性や耐倒伏性を高めるとともに、土壌pHを矯正する目的で、耕起代かきまでにケイ酸質資材を投入する。いもち病の常発地や弱い品種(ヒノヒカリ等)では、育苗箱施用剤に本病に効果のある薬剤を用いる。</p>

項 目	作 業 内 容																			
<p>(3) 大豆の播種</p>	<p>除草剤は散布時期・量や方法等、適正に使用し、散布後7日間は完全に止水し、そのうち4～5日間は3～4cmに湛水して田面を露出させないとともに、除草剤を含む水が河川等に排出しないようにする。</p> <p>田植え後の置き苗はいもち病の発生源となり、それを断つことで本田発生を大幅に抑えることができるので、地域全体で早急に処分する。</p>																			
	<p>ア 播種適期</p> <p>大豆の播種適期は、平坦地ではタマホマレが6月上旬～7月上旬、フクユタカが6月下旬～7月中旬で、中山間・高冷地ではこれより10日ほど早くなる。</p> <p>表1 品種別播種適期</p> <table border="1" data-bbox="456 909 1445 1364"> <thead> <tr> <th>品 種</th> <th>平 坦 地</th> <th>山 間 地</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タマホマレ</td> <td>6月上旬～7月上旬</td> <td>5月下旬～6月下旬</td> <td>この範囲なら、早播きするほど生育旺盛で着莢数が増加し多収となる。</td> </tr> <tr> <td>フクユタカ</td> <td>6月下旬～7月中旬</td> <td>6月上旬～7月上旬</td> <td>早播きすると茎が長くなり倒伏しやすくなる。晩播適応性は大きい。</td> </tr> <tr> <td>丹波黒直播栽培</td> <td>6月下旬～7月上旬</td> <td>6月中旬～6月下旬</td> <td>直播栽培の場合6月中旬頃までは蔓化が起こり、遅すぎると減収する。</td> </tr> <tr> <td>丹波黒移植栽培</td> <td>播種6月中旬 移植6月下旬</td> <td>播種6月上旬 移植6月中旬</td> <td>移植栽培では百粒重を大きくすること及び鳥害を防止できる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 湿害対策</p> <p>大豆の播種直後～生育初期の湿害は、出芽率の低下による苗立数の不足と生育停滞を招くだけでなく、いつまでも生育回復できないため、雑草が繁茂して栽培を断念することになる。また、播種適期が梅雨期間中であり、今年は降水量が多いとの予報であるため、湿害を受けやすい転作大豆では排水対策を徹底する必要がある。播種までに本暗渠や弾丸暗渠を施工するとともに、圃場内の畔際に周囲溝（額縁明渠）を設ける。平畝せでスタートする場合は、耕耘後整地前に深さ20～30cmの溝を4～6m間隔で設置し、地下水位の高い地域では、高畝栽培とする。</p> <p>週間天気予報等を参考にして播種を行い、梅雨の大雨が予想される場合は播種を延期する。低水分種子（軽く噛むと割れる水分10%以下の種子）は湿害に弱く、播種後の雨で出芽率が低下したり初期</p>	品 種	平 坦 地	山 間 地	備 考	タマホマレ	6月上旬～7月上旬	5月下旬～6月下旬	この範囲なら、早播きするほど生育旺盛で着莢数が増加し多収となる。	フクユタカ	6月下旬～7月中旬	6月上旬～7月上旬	早播きすると茎が長くなり倒伏しやすくなる。晩播適応性は大きい。	丹波黒直播栽培	6月下旬～7月上旬	6月中旬～6月下旬	直播栽培の場合6月中旬頃までは蔓化が起こり、遅すぎると減収する。	丹波黒移植栽培	播種6月中旬 移植6月下旬	播種6月上旬 移植6月中旬
品 種	平 坦 地	山 間 地	備 考																	
タマホマレ	6月上旬～7月上旬	5月下旬～6月下旬	この範囲なら、早播きするほど生育旺盛で着莢数が増加し多収となる。																	
フクユタカ	6月下旬～7月中旬	6月上旬～7月上旬	早播きすると茎が長くなり倒伏しやすくなる。晩播適応性は大きい。																	
丹波黒直播栽培	6月下旬～7月上旬	6月中旬～6月下旬	直播栽培の場合6月中旬頃までは蔓化が起こり、遅すぎると減収する。																	
丹波黒移植栽培	播種6月中旬 移植6月下旬	播種6月上旬 移植6月中旬	移植栽培では百粒重を大きくすること及び鳥害を防止できる。																	

項 目	作 業 内 容																											
	<p>生育が劣るため、濡れタオルや紙おむつに包んで加湿（軽く噛んで歯形が付く程度で、水分15%前後）してから播種する。隣接水田からの浸透水を防ぐため、大豆栽培では集団栽培する。播種後に大雨があり発芽不良や生育不良が生じた場合（子葉が展開後、すぐに黄変する）は、後々まで生育が悪く、茎葉の繁茂による抑草効果が働かないため、雑草が繁茂して品質収量が大幅に低下するので、すき込んで播き直したが方がよい。不耕起（密植）栽培は湿害軽減効果が高い。</p> <p>ウ 種子更新、種子消毒</p> <p>種子は品種固有の特性を備え、粒形が齊一で充実が良く、病害虫の被害が少ない良好なものを選定する。長年自家採種を続けると品種の劣化や種子伝染性病害が発生し、収量・品質が低下するので、少なくとも3年に1回は指定採種圃産の優良種子に更新するとともに、紫斑病等の予防のため、種子消毒を必ず行う。なお、鳥害防止を兼ねる場合はキヒゲン剤を粉衣処理する。</p> <p>エ 栽植密度及び播種量</p> <p>平坦部における10a当たりの栽植密度は、タマホマレでは6月上旬で10,000本、6月下旬で16,000本と、遅くなるほど多くする。フクユタカは適期播種では10,000～14,000本とするが、栽植密度差による収量差はタマホマレより小さい。丹波黒では1,600～2,800本とする。</p> <p>表2 品種別栽植密度と播種量</p> <table border="1" data-bbox="440 1444 1445 1960"> <thead> <tr> <th>品 種</th> <th>畦 幅 (cm)</th> <th>株 間 (cm)</th> <th>m²当 り株数 (株)</th> <th>株 播 種 数 (粒)</th> <th>種子量 (kg/10a)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タマホマレ</td> <td>75</td> <td>16～26</td> <td>8～5</td> <td>2～3</td> <td>6～8</td> <td rowspan="2">1株2本仕立てとする。 播種期が10日遅れで10%、20日遅れで30%播種密度を増やす。</td> </tr> <tr> <td>フクユタカ</td> <td>75</td> <td>19～26</td> <td>7～5</td> <td>2～3</td> <td>6～8</td> </tr> <tr> <td>丹波黒</td> <td>120 ～ 140</td> <td>30～45</td> <td>2.8 ～ 1.6</td> <td>2</td> <td>3～4 移植は 2～3</td> <td>初生葉展開時の間引きで1本仕立てにする。</td> </tr> </tbody> </table>	品 種	畦 幅 (cm)	株 間 (cm)	m ² 当 り株数 (株)	株 播 種 数 (粒)	種子量 (kg/10a)	備 考	タマホマレ	75	16～26	8～5	2～3	6～8	1株2本仕立てとする。 播種期が10日遅れで10%、20日遅れで30%播種密度を増やす。	フクユタカ	75	19～26	7～5	2～3	6～8	丹波黒	120 ～ 140	30～45	2.8 ～ 1.6	2	3～4 移植は 2～3	初生葉展開時の間引きで1本仕立てにする。
品 種	畦 幅 (cm)	株 間 (cm)	m ² 当 り株数 (株)	株 播 種 数 (粒)	種子量 (kg/10a)	備 考																						
タマホマレ	75	16～26	8～5	2～3	6～8	1株2本仕立てとする。 播種期が10日遅れで10%、20日遅れで30%播種密度を増やす。																						
フクユタカ	75	19～26	7～5	2～3	6～8																							
丹波黒	120 ～ 140	30～45	2.8 ～ 1.6	2	3～4 移植は 2～3	初生葉展開時の間引きで1本仕立てにする。																						